

広島県鉄構工業会

「製品輸送」で講習会

重量制限や環境改善を学ぶ

広島県鉄構工業会(理事長 山本泰徳・ステントス社長)は12日、広島市内の



山本理事長

ホテルニューヒロデンで「鉄骨製品のトラック輸送に関する講習会」を開催し

た。車両制限やトラック運送事業の環境改善について学んだ。

山本理事長は「道路法では9・5tを超える積載物の運搬にはトレーラーなどの特殊車両が必要だが、現在手配が困難となつてい

状を理解し、今後の設計や製品加工に生かしてほしい」とあいさつした。

当日は、国土交通省中国地方整備局広島国道事務所上級専門職の家熊賢二氏が「車両の大きさおよび重量の制限について」をテーマ

に講義。道路法に基づく車両制限や特殊車両の通行許可制度、取り締まり・補導について解説した。その中で通行の許可申請は特殊車両の荷主や運送業者など通行に関する責任を有する者が行う必要がある、問題が

発生した場合は荷主の責任が問われる点を指摘した。また、橋などを通行時の重量や寸法、走行方法などの許可条件を説明した。加えて違反に対する取り締まりや指導、罰則の内容を紹介した。

次いで、同省中国運輸局自動車交通貨物課の音谷智子専門官が「トラック運送事業の現状と環境改善の取組みについて」をテーマに講義。トラック運転手の長時間労働改善への対応例として①予約受付システムの導

入②荷主からの入出荷情報の事前提供③運転以外の作業分離④十分なリードタイムの確保による安定した輸送確保——などを挙げた。また、運送業の働き方改革への対応や法令違反に対する荷主勧告制度についても説明した。そのほか、高田機工が発荷主となった「建設部材の設計変更による24時間走行可能化」が改善事例として紹介された。

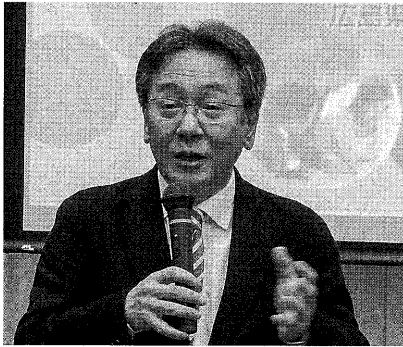
講義後、山本理事長は①重量・長さ制限②運送



講習会のもよう

「事業承継セミナー」を開催 特徴やM&Aなどを学ぶ

全構協・中国支部



あいさつする山本支部長

業承継には親族や従業員への移譲のほか、M&Aも選択肢として日本全国の中小企業にも広がっている。セミナーを今後の参考にしたいとあいさつした。

セミナーは2部構成で進行し、最初に広島県事業引継ぎ支援センター統括責任者の平野勝正氏が「中小企業の事業引継ぎの現況」をテーマに講義した。

平野氏は、後継者不在による廃業や事業承継に関する相談数の増加などの実情を紹介。特に後継経営者の不在により黒字経営でも廃業する企業が多数あることを指摘した。その上で、実際のM&Aの実例を動画で紹介。加えて若い世代の経営者ほど企業のM&Aに対する関心が高いという意識調査の結果を示した。

続いて、「様々な事業承継の手法とその特徴」をテーマに上八丁堀法律実務事務所

全国鐵構工業協会の中国支部(支部長 山本泰徳・広島県鉄構工業会理事長・

冒頭、山本支部長は「事

業承継には親族や従業員への移譲のほか、M&Aも選

業承継には親族や従業員への移譲のほか、M&Aも選

業承継には親族や従業員への移譲のほか、M&Aも選

業承継には親族や従業員への移譲のほか、M&Aも選

で講義した。中山氏は事業承継の必要性として①ヒト(従業員や技術)②資産③信用やノウハウ、人脈、情報などの経営資源——の面から引き継ぎによる経済効果を挙げた上で、①親族内承継時の法令や税務優遇、金融支援②従業員や第三者への継承時の資金確保や株式譲渡の方法③M&A(合併・会社分割・事業譲渡)——の各内容を解説した。特にM&Aによる承継については自社の価値を評価する人(企業)を見つけることの重要性を説いた。